

国語 1次 正答率・講評

問題	正答率 (%)				講評
	受験者		合格者		
	完全	部分	完全	部分	
問一	8.5	91.5	13.6	86.4	<p>出典は、酒井順子『男尊女子』（文章A）と中村桃子『「自分らしさ」と日本語』（文章B）による。どちらもジェンダーによる言葉遣いの違いに着目した文章である。文章Aは自分の若い頃と現在を比較し、男女による言葉遣いの差がなくなってきたことを指摘している。文章Bは10代の少女の用いる自称詞に着目し、その理由を考察すると同時に、ことばが関係性を作り出すものであることを述べている。例えば受験生の世代でも仲間内では「おれ」という自称詞を用い、少しかしこまった場では「ぼく」を用いたりすることはあると思うので、普段あまり意識せずに使っている言葉に対して気づききっかけになればと思ふ素材文を選んだ。また、人間の関係性はあらかじめ決まっているものではなく、言葉によって作られていく構築主義的な面があるという考え方にも着目してほしいというメッセージも込めている。作問に際しては文章Aで触れられている女子高生の言葉遣いについて、文章Bにおける言葉とアイデンティティーという側面からの分析を絡めた形で問うなど、複数のテキストを関係づけることも意図した。</p> <p>問一は㉞「意中」の出来が悪かった。語彙として知らない受験生も多かったのだろう。問六の正答率が25%程度であったのは残念。イがダメーだが、筆者は「この先どのような言葉遣いをするようになるのか」を気にしているのであり、彼女たちの将来＝先行きを心配しているわけではない。問十一は文章Bの内容をふまえるという条件が重要。少女が「わたし」ではなく「ぼく」「うち」などの自称詞を使うのは、「大人の女」として見られることへの抵抗感からである、と説明されている。受験者と合格者の間で正答率の差が大きかった問題は問九、十、十四。どれも本文をしっかりと読んでいけば正解が選べるので、標準的な問題を取りこぼさず得点できるようにすることが有効な方法だろう。大きな記述問題である問十六は文章力の差が得点の差につながった。(1)具体的な例や状況については、場所や時間、会話の内容まで説明できていた解答、(2)そこでのメリットについては、生徒と先生の関係性がどのように変化するかを丁寧に説明できていた解答がそれぞれ高得点となった。</p> <p>解答するテクニックも大事だが、まずは本文の内容をしっかりと理解できるようにすることが一番。また、筆者の問題意識（なぜこの文章を書いたのか）を考えることも大切である。それは国語の学習をするときだけでなく、日常生活における疑問や考察をすることともつながってくる。例えば今回のように言葉遣いがテーマであれば、普段から多少なりとも意識をしている人にとっては、そうでない人よりも取り組みやすかったのではないだろうか。語彙や表現などについても同様である。受験生諸君には、学習の機会が日常の中にこそあることを意識してほしい。</p>
問二	40.2	56.3	49.4	49.4	
問三	25.6	72.4	34.6	65.4	
問四	45.7	52.3	55.6	43.2	
問五	36.7	49.2	42	45.7	
問六	25.6		22.2		
問七 (1)	75.4		79		
問七 (2)	29.1	66.8	39.5	59.3	
問八	50.8	47.7	59.3	39.5	
問九	74.9		85.2		
問十	42.7		58		
問十一	21.1		27.2		
問十二	35.2		40.7		
問十三	3.5	64.3	7.4	67.9	
問十四 (1)	4.5	61.3	6.2	75.3	
問十四 (2)	27.1		38.3		
問十五	17.1	49.7	24.7	44.4	
問十六	0	73.9	0	80.2	

国語 2次 正答率・講評

問題	正答率 (%)				講評
	受験者		合格者		
	完全	部分	完全	部分	
問一	9.5	89.0	13.6	86.4	<p>出典は澤田智洋『ガチガチの世界をゆるめる』。前半では健常者が障害者を疑似体験するための「ゆるスポーツ」の解説や、それらを創作する際の考え方を提示している。後半ではその考え方を敷衍(ふえん)し、日本社会における旧来的な価値観である「体育脳」について批判している。本文には筆者の体験談や感覚が多く述べられており、小説の出題において求められるような心情把握に加えて、筆者の主張を論理的に理解する説明文としての読解力が必要とされる。また、設問によっては二次テキスト(会話文)の読解が必要とされ、協働的に問題解決を図る三者の会話の流れを読み取らせる問いを課している。以下、設問毎の講評となる。</p> <p>問一：「金輪際」と「漂う」の正答率が相対的に低い。前者は日常的に使用するものでなく、後者は和語であることが要因と考えられる。「静止」については「制止」という解答が散見された。</p> <p>問二：語彙問題。㉠㉡については口語的な語句であり、㉢㉣については活字としての一般的な語句から出題している。受験生からすれば前半部の方が答えにくいように見受けられた。</p> <p>問三：接続語の空欄補充。基礎的な出題であり誤答率は極めて低い。</p> <p>問四～六：心情及び心情についての理由把握。本文は説明的文章ではあるが近年の傾向通り、小説に類似する心情把握の問題とした。部分的に該当する選択肢を排除し、筆者の体験の感覚を総括的に捉えられているかが正誤を分けた。</p> <p>問七：具体例の情報整理。「500歩サッカー」と「イモムシラグビー」の情報を整理し、観点ごとに抽象化が必要となる。</p> <p>問八：前後の文章をそのまま書き写しただけの誤答が目立った。「健常者」を「障害者」に「する」ということの意味を問うているため、対象の変化に言及することが重要である。</p> <p>問九：傍線部についての理由把握。直前的一部分だけを理由とするのではなく、内容を総合的に捉えた理由を選ぶ必要がある。</p> <p>問十：傍線部の理由についての表現抜粋。理由を問うてはいるものの、同語反復されている箇所に着目する必要がある。</p> <p>問十一：心情把握。設問要求としては心情把握であるが、直前の事例の内容と登場人物の心情との関係を踏まえた上で正誤を判断する必要がある。</p> <p>問十二：主張の意図についての誤答選択。本文に直接かかれていない筆者の心情を選択する。</p> <p>問十三：模範解答にある「障害者は健常者よりも弱者だ」という一般的な固定概念」という内容を叙述している解答が多く見受けられた。従来の「スポーツ」の一般的な特質やそれに対する考え方について言及している答えはあまり多くなく、最後の「ゆるめる」を的確に言い換えている答えはごくわずかであった。</p> <p>問十四：既存の考えについての内容把握。そのものの持つ功罪について本文中に明らかな言及があるものの、該当する内容が二点あることや「悪い点」について概念的な理解を必要とする。</p> <p>問十五：設問要求として「筆者の主張を踏まえて」とあるため、「周囲の規律やルールを変えること」について説明されていなくてはならない。この点については抽象化が不十分な解答が散見された。次に傍線部の比喩表現は具体的にどのようなことなのかを説明する必要があるが、この部分については比較的よく書けていた。文章の構成として、条件となる「筆者の主張」と傍線部の比喩表現とを適切に結びつけられている解答はごく少数であった。</p> <p>問十六：設問一では二次テキストの文脈把握、設問二では発想力を問う自由記述を出題している。(1)では具体的な事例を適確に説明できていることが解答の要件となる。「ゆるめる」べき内容については多くの解答が得点できていた一方で、「ため」以前の内容を理由説明として提示出来ていないものが散見された。(3)は具体的方法を提案する問いであるが、(1)と(2)を踏まえて記述できている解答は極めて少なかった。感情論としての内的変化を方法として提示した解答が散見されたことから、設問要求にまで注意を払うことができていないと考えられる。</p> <p>記述解答全体に言えることとして、誤字・脱字・係り受けの乱れが目立つ。</p>
問二	10.4	86.0	14.1	84.3	
問三	97.9	2.1	99.0	1.0	
問四	53.9		60.7		
問五	63.7		64.9		
問六	68.2		72.3		
問七	69.9	28.9	74.9	23.6	
問八	11.0	30.1	11.0	36.1	
問九	29.2		35.1		
問十	66.4		73.3		
問十一	38.4		45.5		
問十二	58.9		61.3		
問十三	1.5	76.8	2.1	85.9	
問十四	56.3		73.3		
問十五	7.7	54.2	12.0	59.2	
問十六(設問一)	57.1		67.0		
問十六(設問二)	3.0	74.7	5.2	78.5	

国語 3次 正答率・講評

問題	正答率 (%)				講評
	受験者		合格者		
	完全	部分	完全	部分	
問一	38.4	61.6	48.9	51.1	<p>出典は、いしいしんじ『ぶらんこ乗り』。サーカスのチケットをもらったことから、家族で見に行くことになった場面。問題文の前半ではサーカスに行くまでの家族内での出来事、後半ではサーカスを見る弟の様子が、それぞれ姉である「私」の視点から描かれている。前半には、弟がノートに綴った話も出てきて、その時の弟の心理や状態を捉えるヒントにもなっていて、それ故に設問により読解力の差がはっきりと見られた。</p> <p>問一の漢字の問題では、やはり㊦の「コウエン」の間違が多く見られた。同音異義語が多いので予想通りではあったが、中には意味を全く考えずに解答していると思われるものもあった。漢字を学習する際には、その漢字や熟語が持つ意味を正確に把握して覚えるように心掛けてほしい。</p> <p>問九は弟のノートの記述についての理解を問うものだが、根拠を明確にして説明することが求められている。「どのように考えて」とあるので、この時の弟の気持ちや感情を解答しても得点にはならない。</p> <p>問十は文章全体から「私」が弟への理解が及ばない理由を考える問題である。内容としては問五とも関連しているが、少なくとも弟の恐怖の対象がおばあちゃんではなくサーカスであることは理解して解答してほしい。</p> <p>問十三は弟の興奮した状態への理解を問うものであったが、単に「もらった」ことだけの解答が多く、また恐怖と勘違いしている解答もあったのは残念である。</p> <p>問十五〔IV〕は弟の状態についての踏み込んだ理解を問うものであったが、文章全体から弟がサーカス・空中ブランコについて考える中で、無意識のうちに生死についても思考が及んでいることに触れて解答してほしい。</p>
問二	98.6	1.4	100.0	0.0	
問三	95.9	4.1	95.7	4.3	
問四	91.8		95.7		
問五	61.0	6.2	85.1	2.1	
問六	88.4		93.6		
問七	76.7		87.2		
問八	87.7		95.7		
問九	26.7	15.8	40.4	14.9	
問十	0.0	40.4	0.0	51.1	
問十一	73.3		89.4		
問十二	74.7		70.2		
問十三	0.0	76.7	0.0	83.0	
問十四	57.5	8.2	68.1	6.4	
問十五Ⅰ	94.5		97.9		
問十五Ⅱ	33.6		38.3		
問十五Ⅲ	20.5	5.5	38.3	6.4	
問十五Ⅳ	0.7	51.4	0.0	63.8	